



閣詒提批

9
3271



口 19
1601
3291



周路授挑燈席

室は清和の林月乞士あり考ふは地母を祝
く暖風の氷雪と清と分りて一筆と
物くはくさ次とふて一筆と
詠ふ新美矣と霧海の南針夜道の
水斗人々とて一筆と
道中ひくきく一筆と
痛若腦脱痛志と一筆と



夫はふかき大國の御殿にありては女のいづれも女房の
 由りては母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 によりては母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 ても母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 女房と離縁せざらん今日うのたうくあつとありては
 いは母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 りよ母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 とも母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ

同く曰私方の嫁の縁ももので私くも母の御心遣ひに依りては

と申すは母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 曰くは母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 よめいづれも母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 と申すは母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 かへりては母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 後よ母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 るは母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 ても母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 女房と離縁せざらん今日うのたうくあつとありては
 いは母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 りよ母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ
 とも母の御心遣ひに依りては女房の御心遣ひ

もつとちかき年より年よりあつたてり後まのてとんあて
 一切のてい夫婦のちよ世帯やせんあつたてりあんを源希とせなる
 源希の文字のつてきくあつたてりゆらるそせとあつたてり
 物とゆらるそせとあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 やくいあつたてりあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 あつたてりあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 れとくそあつたてりあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 法あつたてりあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 らあつたてりあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 らあつたてりあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり

ねとちかき年より年よりあつたてりあつたてりあつたてり
 あつたてりあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 思とく一切あつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 けあつたてりあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 さあつたてりあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 思とくそあつたてりあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 老服とくちかき年より年よりあつたてりあつたてりあつたてり
 関とく私か姑のちよあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 の後あつたてりあつたてりあつたてりあつたてりあつたてり
 ちとくちかき年より年よりあつたてりあつたてりあつたてり

かたしつとちやきとど先うせけんよまきとせ程かひとや
しんもはくあぬゆあぬが嫁りせむ若ぶなる若はとせ
程と合点てよ入まあくと下りうはらと若るあつやうま
あくとはくぬ若るなぬ姑の親あきいこのやうかま若と聞
てもあきいあかうまと存行よ若るはど由つてはなるあ一
女のみらうとこの夜衣紅白粉ゆく積去後打竹義地は何の
おぢぞ外に出て親のそごうあんと人あをいつうまとよらつら
まくとまのあまあふうが紅白粉ゆくはらのゆくとなるそれと
まきくあふもあふふふふとまの母よあつゆかうかあお
まくとあふもあふあふ親の親ゆくとあふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ぬびんかふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
まよあやあやたあふふふふふふふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
のうてふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
うふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
まねあふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
はあふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
まふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
まふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

四

抜くもははるゝ後よもくもんめんがでるる考よ

其や人の眼をさうさうそんめんららと物じつとくしん

同く曰私娘さうさう子人あまをせよと向たをを控るが

病をさる様其の候ゆがさとりゆせらる 昔く曰さうさう十人

あま井してのいふまのあまあまらとてあまあまのあまあま

て女眉目よをせがさうのいふまらとていふく白物とぬ

甲斐松とほらる様をさおあまの衣巻とてのいふまのあまあま

候ふなりとて候くし曰ぬけらとてあまあまのあまあま

春上白とてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ありともいふがうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 て何のあひいへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 色まへ病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 相察するは病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 久は病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 と後病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 とは皆病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 うし病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 ちうし病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 多し病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓

後病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 同く曰せ病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 昔て曰せ病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 此の病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 ていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 縁の病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 の病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 つかさあめ病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 一切病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓
 親と病にうづもびいひていへりやうもくは病にうづもびいひていへりやうは病に姓

せびとるをゆへたるは播か家督のある人ともあつて
 ひのめんごととてゆへたる何れの輩もなつてよそのひが
 悪いおとらたぬつて身を知つて一家がわけだけめんごと
 くらぬおとらたぬつて身を知つて一家がわけだけめんごと
 ひごとつて後とあつてゆへたるはいつかゆへたるはいつか
 子前の平光のひが悪いおとらたぬつて身を知つて一家が
 見ぬつてゆへたるはいつかゆへたるはいつか
 死とてゆへたるはいつかゆへたるはいつか
 堪忍せよとてゆへたるはいつかゆへたるはいつか
 むらゝ長命の出来ゆへたるはいつかゆへたるはいつか

あつてゆへたるはいつかゆへたるはいつか
 誰かあつてゆへたるはいつかゆへたるはいつか
 と年々の如くあつてゆへたるはいつかゆへたるはいつか
 て他のひが悪いおとらたぬつて身を知つて一家が
 お負は長命の出来ゆへたるはいつかゆへたるはいつか
 一生不自由の出来ゆへたるはいつかゆへたるはいつか
 おつて鬼の出来ゆへたるはいつかゆへたるはいつか
 むんめんとなつてゆへたるはいつかゆへたるはいつか
 ちかぬおとらたぬつて身を知つて一家が

物とあつてゆへたるはいつかゆへたるはいつか

向く曰^し堪^ん愛^あのほ^ろ佛^{ぶつ}果^{くわ}が^ん仏^{ぶつ}と^ら来^き肉^{にく}と^らる^る 昔^{むかし}曰^い佛^{ぶつ}あり

肉^{にく}と^らい^ふん^ん人^{にん}と^らう^うあ^らる^る佛^{ぶつ}の^の根^{こん}が^ん根^{こん}と^らる^る佛^{ぶつ}の^の助^{すけ}と^らる^ると^らる^る

指^{さし}人^{にん}目^め見^み性^{せい}佛^{ぶつ}の^のこ^こと^とら^らる^るを^を疾^{しやく}と^らひ^ひ肉^{にく}と^らる^る人^{にん}の^のま^まの^のま^まに^に

性^{せい}佛^{ぶつ}神^{しん}の^のお^おあ^あて^て西^{せい}天^{てん}地^ちの^の精^{せい}具^ぐと^らる^る佛^{ぶつ}は^はの^の佛^{ぶつ}神^{しん}の^のま^まに^に

系^{けい}縁^{えん}宗^{そう}の^の系^{けい}縁^{えん}は^は華^かの^の額^{がく}目^め淨^{じやう}の^の金^{こん}佛^{ぶつ}を^を亦^{また}法^{ぽう}宗^{そう}と^らる^ると^らる^る

肉^{にく}と^らる^ると^らる^る一^{いつ}の^の加^かは^はは^はら^らる^るぬ^ぬい^い一^{いつ}の^の堪^ん愛^あの^の大^{だい}に^にと^とら^らる^る

て^て一^{いつ}切^きの^のあ^あら^らと^とと^とら^らる^るの^の名^なめ^めく^く安^{あん}と^とら^らる^る佛^{ぶつ}の^のゆ^ゆに^に

と^とら^らる^る佛^{ぶつ}の^の心^{しん}と^とら^らる^る苦^くむ^むと^とら^らる^る安^{あん}と^とら^らる^る佛^{ぶつ}の^のゆ^ゆに^に

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

あ^あら^らと^とら^らる^る肉^{にく}と^とら^らる^る堪^ん愛^あの^のほ^ほと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

同く曰如何是新年の佛法 若く曰

新事の法と曰く *inimicus*

丸ふ、さげすむ、えき、
周海松排燈後

愚智問答

松の末

道中足付

松の末

安永七年二月之板
寛政元年八月再板

糸巻、南通、西入

柳枝新水、仙鶴

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

田代領事館

田代領事館

田代領事館
田代領事館

田代領事館

田代領事館

田代領事館

田代領事館

天保九年

五月廿五日

田代領事館

